



2007年10月1日

**東急電鉄と横浜市神奈川区が
「東横線開通80周年・神奈川区制80周年記念入場券」を制作、販売します**

東京急行電鉄株式会社
横浜市神奈川区

東京急行電鉄(本社：東京都渋谷区、社長：越村敏昭)と横浜市神奈川区(区長：宮崎景)では、東横線開通80周年及び神奈川区制80周年を記念し、共同で「東横線開通80周年・神奈川区制80周年記念入場券」を制作します。

この記念入場券は、横浜市神奈川区にある東横線の3駅(白楽駅、東白楽駅、反町駅)の各入場券に、同区内にかつて存在した東横線の「新太田町駅」(現・東白楽～反町間、1946年5月廃止)と「神奈川駅」(現・反町～横浜間、1950年4月廃止)の入場券を模した記念券(入場券としてはご使用いただけません)をつけたもので、限定3,000セットを販売します。

記念入場券の販売は、2007年10月6日(土)から、東横線白楽駅、東白楽駅、反町駅の各窓口で行うほか、2007年10月7日(日)には、神奈川区制80周年記念3地域合同地域まつり「わが町かながわ物産館」でも実施します。

入場券と記念券にはそれぞれ、当時の駅舎や車両の写真をあしらい、台紙のデザインには、昭和初期に作成された東横電車(現在の東横線)沿線案内図の一部を使用しています。(デザインは別紙をご参照ください)

「東横線開通80周年・神奈川区制80周年記念入場券」の概要は、以下の通りです。

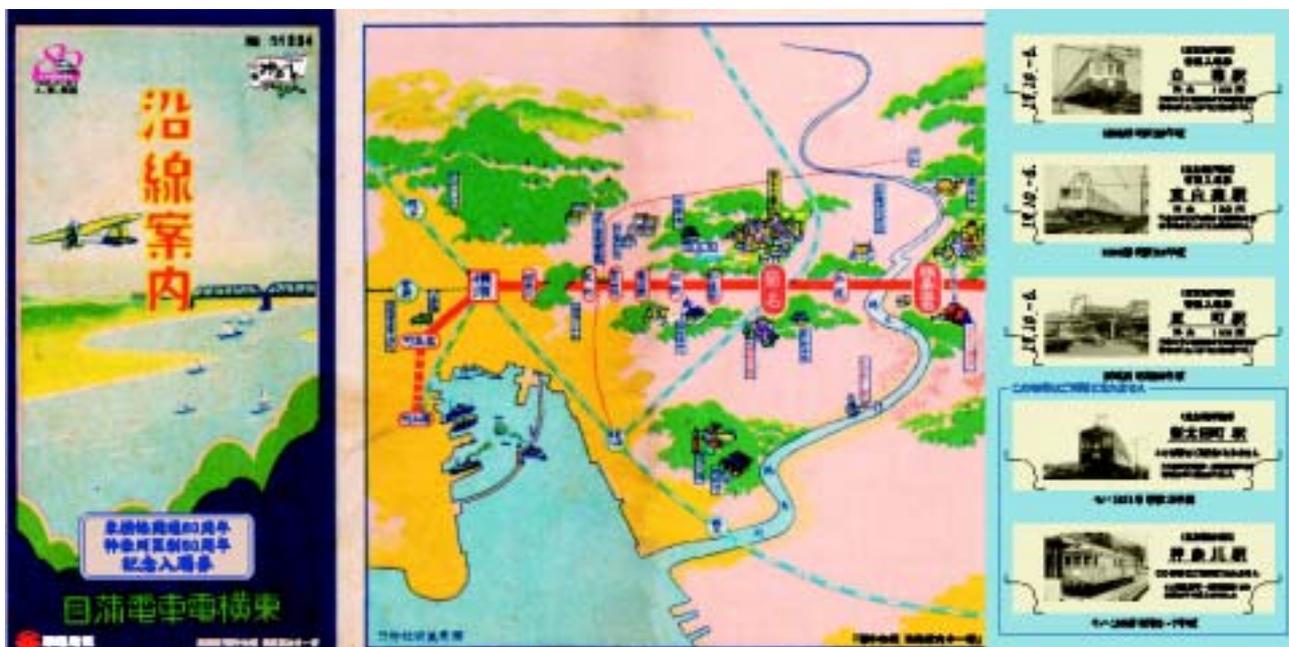
「東横線開通80周年・神奈川区制80周年記念入場券」の概要

名 称	「東横線開通80周年・神奈川区制80周年記念入場券」
販売期間	2007年10月6日(土)から(売切れ次第、終了します)
販売場所	東横線白楽駅、東白楽駅、反町駅の各窓口 * 2007年10月7日(日)のみ、午前9時30分から神奈川区役所別館1階(横浜市神奈川区 広台太田町)で行われる、神奈川区制80周年記念3地域合同地域まつり「わが町かな がわ物産館」でも販売します。
販売内容	東横線白楽駅、東白楽駅、反町駅(いずれも横浜市神奈川区)の硬券記念入場券と、同区内 にかつて存在した「新太田町駅」、「神奈川駅」の記念券を、昭和初期に作成された東横電車 沿線案内図の復刻版をデザインした台紙につけました。
販売個数	限定3,000セット
販売価格	360円(税込)
有効期間	2007年12月31日まで1回限り有効(白楽駅、東白楽駅、反町駅の各記念入場券)

以 上

(別紙)

「東横線開通80周年・神奈川区制80周年記念入場券」デザイン



東横線開通80周年の概要

東横線は、1927年8月28日に渋谷～丸子多摩川（現・多摩川）間が開通し、翌1928年5月18日には現在の渋谷～横浜間にあたる区間で営業を始めました。

2008年5月に東横線の現区間（渋谷～横浜）が開通80周年を迎えるのを記念して、東京急行電鉄では、東横線沿線の商店街、沿線にお住まいの方々、NPOなどとともに「東横線80周年記念イベント実行委員会」を組織し、来年6月にかけて、さまざまな「東横線80周年記念イベント」を開催しています。

現在、東横線80周年記念イベントラリーや記念電車の運行を実施しているほか、今後も、記念シンポジウムや記念グッズの販売を予定しています。

イベントの詳細は、順次ホームページ（<http://www.tokyuenssen.com/80>）で紹介しています。

横浜市神奈川区制80周年の概要

神奈川の地は、鎌倉時代から全国各地を結ぶ船の中継地である神奈川湊として賑わい、江戸時代には、東海道の宿場町、神奈川宿として栄えるなど、古くから交通の要衝として発展してきました。また、幕末には、日米修好通商条約により最初の開港場の一つとなり、区内寺院に外国の領事館や公使館が置かれてきましたが、その後、開港場は横浜港へと移りました。

横浜では、明治22年（1889年）の市制施行以来、人口集中や市域拡張が進み、効率的な自治体運営を行うために区制を敷くこととなりました。昭和2年（1927年）10月1日に、人口約11万人の神奈川区が他の4区（鶴見、中、保土ヶ谷、磯子）とともに誕生しました。

その後、戦災や接收、高度経済成長等を経て、区制80周年を迎えた今日では、大規模工場が立地し集合住宅の開発が進む臨海部、住宅地が広がる内陸部、豊かな自然と農地が残る丘陵部という3つの特徴的な地域の中で、約22万人の区民が様々な生活を営んでいます。

（神奈川区ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kanagawa/>）